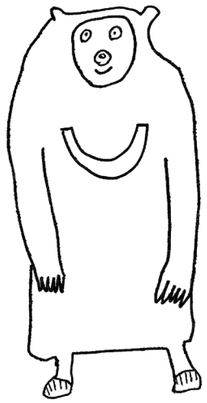


これは、マレーぐま

主たる事業所　**コーラル**
〒274-0065
船橋市高根台6-27-10
TEL・FAX 047-401-6460
E-mail coral@raftnet.org

従たる事業所　**うる**
〒273-0021
船橋市海神4-1-9-3

従たる事業所　**コラリウム**
〒274-0063
船橋市習志野台1-11-4　三和医療ビル２階

Web site　　**Instagram**

RAFT_CORAL

えがおも
あーとも
いばしょも
じぶんも
ともだちも
みらいも
しゃかいも

作る
造る
創る
つくる
ツクル
Tsukuru

コーラルが
コーラルであるために。

土屋 滋朗
つちや・じろう　管理者

東京都立川市出身
武蔵野美術学園版画コース卒業
クリーニング屋、古着屋、酒屋、植木屋等の職を経て、2015年3月NPO法人ラフトに入職。生活介護事業所、グループホーム、外出支援事業所の勤務を経験し、2019年12月のコーラル開所と同時にコーラルへ異動。2021年4月より管理者に就任。趣味は、昆虫観察・ベランダ園芸・山登り。

山本 多佳子
やまもと・たかこ　副施設長

山口県出身
専門学校桑沢デザイン研究所卒業
イラストレーター、その他福祉とは全く違うお仕事を経て、2019年10月NPO法人ラフトに入職。2019年12月の開所時よりコーラルに勤務。2024年1月より副施設長に就任。趣味は、部屋に籠もって音楽を聴きながら縫い物をすること。

土屋（以下、土）　そもそも山本さんは障害者のアート活動になぜ興味を持ったのか、この機会に改めて話してもらえると。

山本（以下、山）　私は、昔、仕事で絵を描いていたんですよ。絵を描くことを仕事にしたいと思っていて、イラストレーターにようやくなれたわけです。でも、次第にうまく描きたいと思う自分が強くなってしまって、絵を描くのが楽しくなくなってきてしまった。そういう中で、静岡のねむの木学園の利用者さんの絵とか、山下清さんの作品とかと出会って、あー、敵わないなーと。元々競ってないですけど、そういう絵や作品を見るのが好きだったので、自分で描くよりも見る方がいいなぁと。それをお手伝いできる仕事があればしたいと思ったんです。

土　そういう感性・・・純粋な感性みたいなものを楽しむっていう意味では、子供のお絵描き教室みたいなのとかもあるじゃないですか？そういうところで働きたいとは思わなかったのですか？

山　思わなかったですね。あ、子供のお絵かき教室でアルバイトしたことはありますよ。何も教えてないですけど。絵具バケツの水を交換するぐらいで。でも、なんでしょうね、すごくびっくりする感じはなかったというか。

土　自分も美術の専門学校に通っていた頃、ある先生がエイブルアートとか障害者アートとかに対しては「俺は認めない」みたいなことを言っていて。理由としては「自分で自分をプロデュースできないから」と。その頃は、別に自分としては障害者アートにも興味なかったし、ふーんくらいに思っていたんですけど、でも、なんか違うんじゃないかなって漠然と思ったんですよね。やっぱりなんだろう、自分をどう見せたいかじゃなくて、自分が何を描きたいかっていうところで、表現の強度というか、強さでいえば、そこにこそあるんじゃないかと思って。

山　そうなんですよ。こう見られたいから、こう描くっていうのじゃなくて。

土　コーラルを始めるってなった時に、パンフレットなどに「誰もが表現者」というタイトルで自分の思いを書いたんですけど、作品などの形に残さなくても「表現」なんですよね、日々の全てが。

山　私、最初あれを読んだ時、ピンと来なかったんですよ。否定という意味ではなくて。コーラルが始まって月日が経って、今ならあの文章の意味がすごくよくわかります。

土　自分もあれを書いた時は、そうありたいというか、そうであってほしいなくらいの気持ちだったけど、今は確信的に「やっぱりそうだな」と肯定できるようになりました。見学に来る人たちなどにも伝えるのですが、絵を描くことだけが、別に表現ってことではないんですよね。

山　例えば、利用者さんが、こっちに置いてあったコップをあっちに置き直したりとかするじゃないですか。一般的に「こだわり」とか言われたりする・・でも、それですら、表現だなって思います。

土　そう、こっちじゃないんだっていう。その人にしか意味や価値が無いとしても、もうそういうこと含めて全て表現じゃないかなって。多分、コップの位置ひとつで、その人にとっては未来が変わってくるんじゃないかと。

山　必ず変わってきますよ。だって、未来はひとつしかない。コップが左にある未来と右にある未来。

土　バタフライエフェクト的というか、なんでもないと思える些細なことでも、未来が変わってくる。そういうのが人生の積み重ねでもあって、だからこそ、全ての表現をコーラルとしては大切にしていきたい。

山　利用者さんの絵とか作品については、上手・下手とか、綺麗・綺麗じゃないとか、そんなにわかりやすく言葉に表せるものでもなくて、周りがもっと素直に、頭を柔らかくして見られると、より楽しめるんじゃないかと思うんですよね。

土　それは日本の美術教育の敗北ですよ。価値観が、そうやって育てられてね。

山　それを壊してくれるのが、このジャンルかと。今、けっこう、活発になっていますよね。私自身が、そこに影響を受けているその１人なんでしょうけど。

土　別に、みんながいいって言うからいいって思わなくてもいいし。作品が商業的に成功したり、天才画家みたいに言ってもらったりすることがゴールではなくて。評価してくれる人が１人だけだったとしても、その人はしっかりとした表現者であると思うし作家であるって思う。コーラルにとってのアートは、そうありたいなぁと。

山　「商業的」という話が出てきましたけど、「商品」をいろいろ作って、外の世界に発信していきたいという思いはあるんです。でも、「働く」とは違う。

土　そうですね。商品化されたものを通して、利用者さんの魅力に気づいてくる人が増えるといいですよね。
働いて高い工賃を目指すような概念をコーラルに持ち込んでいないのは、どうしてもそういう空気感の中では、生産性で人を測ってしまう面もあるじゃないですか。その仕事にマッチした人が評価されて、なかなか捗らない人は、そこの場では役割が少なくなっていく。そういう価値基準を軸にしていっちゃうと、漏れ出てしまう人が出てくるし、実際、他事業所のそういう価値観の中で漏れてしまって、今コーラルを利用している人が結構いるんですよね。そういう人たちも、自分のいいところを周りから認めてもらえる場所が必要だと思うんです。「働く」ことを否定するつもりもなくて、それがその人の生きがいになっていれば、それは素晴らしい。自分だって法人の中で「働き」が認められて管理者になれたわけで、そうやって認められることは嬉しかったりもする。でも、そういう価値観から離れた、違う場所があってもよくて、そんな場所にコーラルはなれたらと。

山　我々なりにはそんな思いの中でやっているわけですが、家族と本人の思いの違いに、ぶつかったりしますよね。

土　支援者って結局、なんというか、働く人であるというか。家族や友達ともまた違う関係性でいなきゃいけない。お給料も発生していれば、責任も発生している。そうなってくると、親御さんの要望・・こうしてほしいとか、立場的には聞く必要もありますよね。
例えば、「夜眠れなくなるから昼間本人が眠たいと言っても寝かせないでほしい」みたいな話はよくあって。親御さんの大変さは、わかるっていう言葉がおこがましいくらいですが、わかっているつもりです。グループホームの勤務経験もあるから。
でも、当然ながら、家族の前の本人とコーラルの中の本人というのは、違う面を見せているところもある。どこまで家族の思いを介入させたり優先させたりするかは悩みますね。ただ、その人の人生はその人のものっていうのがまずはあるので、家族が嫌がる行動でもまずそこを肯定して、そこからアプローチするスタンスで、自分たちは関わっていきたいです。

山　親御さんにしてみれば、うちの子のことをわかってないとか、楽な方に誘導しているとか、もどかしい思いはあるんでしょうね。私としては、コーラルに来て１番したいことが寝たいことだとしたら、まずはそれを受け止めたい。もちろん生活に支障が出ているのであればそのままでいいわけでもなくて。でも、時間をかけて少しずつ関係性を築く中でわかったりアプローチできたりすることも多いんですよね、本当に。
「そのままでいいや」という話ではなくて、日々のコミュニケーションの繰り返しの中で、その人の本当に好きなことややりたいことを見つけていくっていうことをしていければと思ってます。

土　もしかしたら１０年かかって作品づくりとか描くとかでもない、ようやくその人が自分なりの好きなことややりがいを持てることをコーラルで見つけられるかもしれなくて、そんな日が訪れるとしたら、それは、周りからは無意味だと思われてしまうかもしれない「今」も、もしかしたらかけがえのない１日の積み重ねの一部なのかもしれない。

山　「良い」とか「悪い」とかっていう判断から離れられるといいかもしれないですね。

土　もう大人だから、出会った場所だったり人だったりで、自然に変わる部分は変わっていくだろうし、変わらないところは変わらないだろうし。それが全部コーラルの中で完結しなきゃいけないわけではなくて、別の事業所の方がその人にとって合っている場合もあるわけで。
なんか、「かもしれない」って、結論の手前で止めてばかりですね（笑）
でも、やっぱり、最後の最後は本人しか決められない。この「決められない」の気持ちが１番大切で、気持ちがないところで勝手に周りが動いても、空回りしたり余計に負のスパイラルに陥ったりするだけかなって思ってます。

山　ただ、時々「ここで何をしていいのかわからない」みたいな利用者さんの様子をみると、悩んじゃいますね。

土　所在のなさ。コーラルがその人にとっての居場所になっていないという。

山　私も未熟なんで「これやってみますか？」なんて言っちゃったりするのですが、余計に所在なさそうにされまして・・・。でも、そこで「嫌」と表せたわけだから、それも表現と思うわけです。で、またこれはどうかな？とチャレンジして・・・。そこで落ち込んでいられないというか。

土　落ち込んでいる暇があったら、その人とね、もう一歩違う関係性を模索しなよって思いますね（笑）
やっぱりどこかしらで、その人にこっちも踏み込まないと、本人との関係性を築けないし、影響し合えない。それを本人が嫌だって言ったら、嫌だっていうのを受け止めるし、無理はしない。

山　もちろん。利用者さんはちゃんと教えてくれますからね。

土　教えてくれるっていうスタンスを職員側が持っていた方がいい。コーラルの職員も完璧じゃないし、自分たちの価値観を押し付けたりっていうのはまだまだ現状としてあるけれど、本当はそうしたくない。利用者さんの嫌だっていう気持ちすら大切にできない場所にはしたくはないですね。

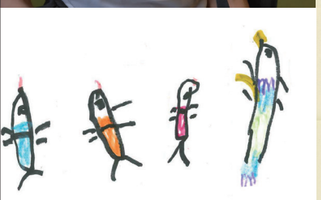
山　そういう中で、利用者間の関係性などもあって、コーラルが嫌だ、居心地が悪い・・って思う方も出てきたりしますね。

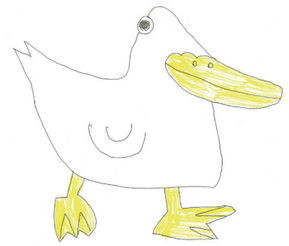
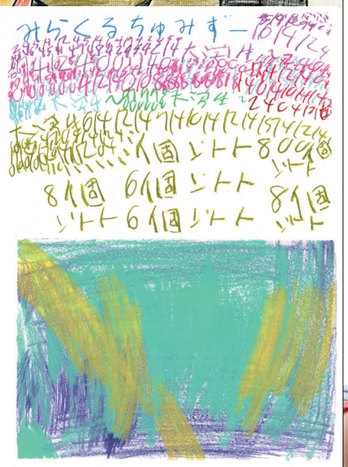
土　そういう気持ちがはっきりした時に、こちらとしてもできる限りのその人にとってのコーラルのあり方を探るけれど、どうすることもできない限界もあるわけで。コーラルに無理に来てもらうことは違うし、コーラルがその人の人生の全てになることもまた違う。そういう場所にはしてはいけないとも思ってます。

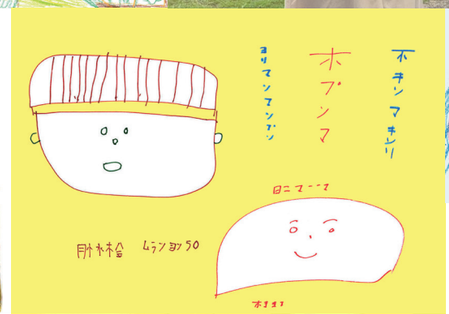
山　土屋さん、このコーラルができてから４年半、何か変わったと思うところはありますか？私は変わりたくてもまだまだ変えられないところがあって。

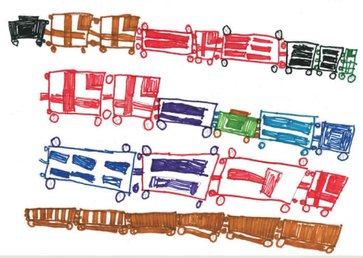
土　変わりましたね。なんていうか、自分自身の価値観みたいなのもアップデートされていくじゃないですか。それこそね、価値観としては、許容できる範囲が増えたというか。
変わるってことに関して言えば、この仕事をして気づいたことでもあるんだけど、人って自分が変わりたいって思ったら変われるんだなって思っていて。逆に言うと、自分がそこに対して何も思っていなかったり、変わらないといけないって思っていなかったりすれば、やっぱり人って変わらない。本当に変わりたいって思ったら自然と変われるっていう可能性を信じたい。誰かと同じ時間を一緒に過ごす以上、やっぱり影響し合う。影響し合うと、やっぱり相手の未来も変わっていくし、自分の未来も変わっていくんですよ。

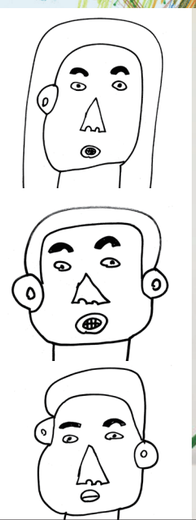
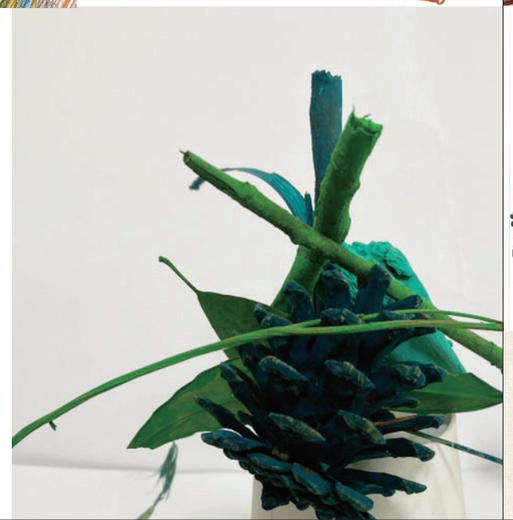
山　土屋さん、あんまり変わっていない気がします（笑）

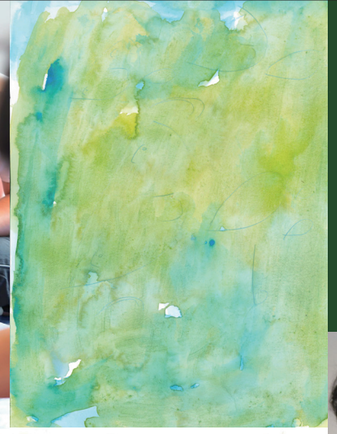
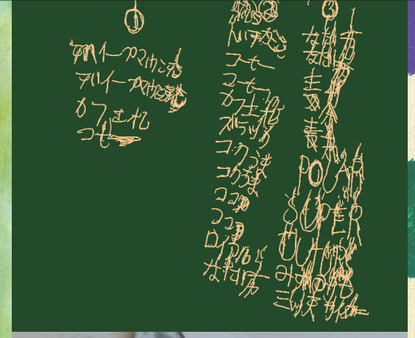


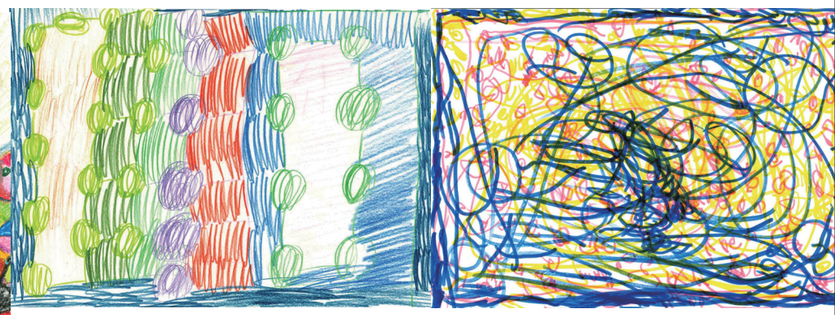


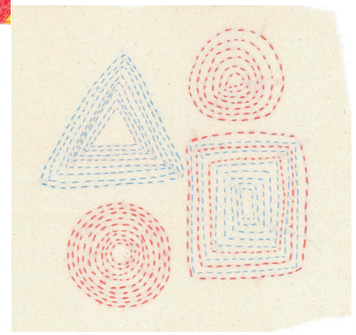
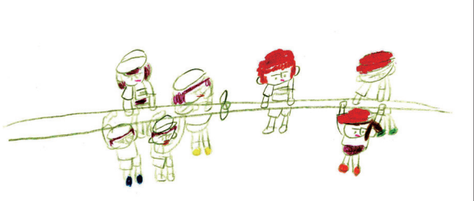


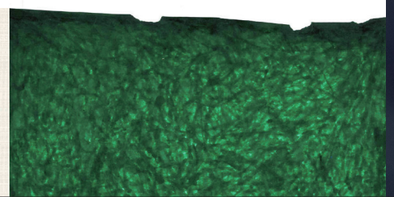



だれもが表現者





ホンネの STAFF VOICE

Q.1「コーラル」ってなんだ？？

- 自分が自分のままに居られるところ
- 自己表現∞な場所
- あふれる個性の集合体
- みんなの居場所
- 日常に転がっている面白さに気付かされる場所
- ジェットコースター！
- 共に生きる中で一緒にたのしみを見つける所

Q.2 コーラルの「強み」を一言で！

- 全ての人を受け入れる
- それぞれにある過ごし方や思いを大切にする
- 一人ひとりの個性を尊重している
- みんなで乗り越えていける
- できる限り寄り添うところ
- みんなが明るい
- その人がその人らしくいることを大事にしている
- 誰もがそのままでいられること

コーラルの外活動

Q.3 コーラルで働く中で大切にしていることは？？

- 皆で一緒に考え、楽しむ
- あふれる個性を取りこぼさない
- どうやったら出来るか、何が出来るかを考えて取り組む
- 楽しい、ありがとう、尊敬を忘れない
- ①報連相 ②正直さ ③肩の力を抜く
- 相手の気持ちを考えてみること
- チームワーク、常にアンテナをはる、耳を傾ける
- 新しい視点に気が付かせてもらえる環境を十分に楽しむ

Q.4 コーラルに通ってくれる人へのメッセージ

いつも私の想像を超えて驚かせてくれたり、楽しませてくれたり、また、大切なことに気づかせてくれて、どうもありがとう。

みなさんに教えてもらって、一緒に楽しく過ごしたいです。よろしくお願いします。

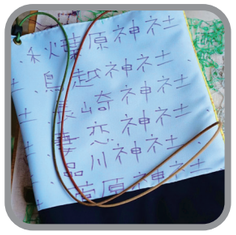
コーラルという場所を作るのは職員の力だけではなく、利用者の方、保護者の方の参加が不可欠です。皆さんで作っていきましょう！

皆さんのおかげで、人と関わることが楽しい人生になりました。

皆さんに寄り添ってもいいですか？共に歩いて行きましょう！

いつもありがとうございます！毎日色々なことがありますが、その皆さんの笑顔や作品がコーラルをどんどん創り上げていってくれていると思っています。

ART WORKS コーラルで作られた商品の一例



広報誌
「CORAL REEF」

3ヶ月毎に発行しています。コラム、活動報告、職員紹介、商品紹介などなど、読めばコーラルのことが身近に感じられる一冊となっています！

インスタグラム
「raft_coral」

スタッフがかわりばんこに投稿しています。日常のちょっとしたエピソードからイベントのお知らせまで、タイムリーにお届けしています！

CHECK

RAFT_CORAL

法人代表より

喜本　由美子
きもと ゆみこ　社会福祉法人ラフト理事長

千葉県千葉市出身
障害者支援を「仕事」にしたいと思ったのは、学生時代、卒業論文を書くためにタイの障害児施設で1ヶ月程ボランティアのようなことをさせてもらったことがきっかけ。大学卒業後、千葉市にあった無認可作業所に2年間勤務した後、船橋市の地域生活支援センターに約5年間勤務。2008年、NPO法人ラフトを立ち上げる。

ラフトは、障害のある方が通える場所として、これまで「アイル」（2012年開所）と「コーラル」（2019年開所）の2つの通所施設を運営していましたが、「アイル」については、今年1月に「コーラル」の従たる事業所に変更した後、5月末日をもって閉業しました。「コーラル」においては、今年８月より、主たる事業所「コーラル」、従たる事業所「うる」「コラリウム」の3か所に拠点を拡げ、活動していきます。

このような流れもあり、「コーラル」を利用してくださる方が増えています。そんな今だからこそ、あらためて「コーラルが大切にしていること」や「コーラルのめざすもの」をかたちにして皆様にお届けできたらと思いました。

社会福祉法人ラフトの理念、「いっしょに生きる」。「障害」のある人生・・それはやっぱり大変だったり困ったり辛かったりしんどかったり・・・いろいろあるわけですが。傍らで、いっしょに考えたりいっしょに悩んだりいっしょに迷ったりいっしょに間違えたりいっしょに喜んだりいっしょに笑ったり・・・そんな誰かがいることで、けっこうどうにかなるかもしれない。そういう思いを込めた法人の理念です。一見簡単そうに見えるこの「いっしょに」が難しいんです。お互いがお互いを認め合えないと成り立たないから。そこにとことん向き合っているコーラルの日常を、ここに記されたコーラルで働く職員達の言葉から、作品や通ってくださっている方々の写真から、少しでも皆様に伝えられれば、うれしいです。

これは、コーラルを開設するにあたって記した思いの一部です。

『最近の障害者支援においては、「計画」や「目標」が大切にされているとも言えます。支援計画や支援目標。そこをまったく否定するつもりもなく、実際にとても重要なところだと思っています。

一方で、どんどん感じていくのです。重い障害のある方、特に言葉で上手に表現できない方の場合、常に誰かの・・家族だったり支援者だったり社会だったりが求める“彼・彼女”になることが目標とされてしまうことを。いつの間にか、周囲の希望や期待が、その人の言葉として表現されてしまうことを。でも、それはやっぱり違う。自らの言葉は自らが持っているのです。

彼らの作品は、私の知らない彼らを教えてくれました。そのことがうれしい。私が望む彼らに出会うよりも、本当の彼らに出会いたい。あなたがあなたであることを大事にしたい。そして、これからも教えてほしい。生きることとか、生きることの意味とか、生きることの可能性とかを。』

こんな思いを小さな種にして船橋市高根台の地に撒いたわけですが、その種はしっかりと芽を出してくれ、少しずつ少しずつ成長しているのを感じています。地域の中で、コーラルのあり方が一つの選択肢となり必要な人たちに届くことで、光が浴びせられ、水が与えられているのでしょう。さりげなく繰り返される「今日」を大切にすることで、その根は強く優しく張っていき、いつの日か、コーラルにしか咲かせられない花を見せてくれるように思っています。

2024年7月
社会福祉法人ラフト　理事長 喜本 由美子

社会福祉法人ラフト

2008年2月	NPO法人ラフト設立（船橋市海神）
2008年5月	事業開始（サポート＆サービスラフト開所）
2012年4月	アイル開所
2014年6月	相談支援センターラフト開所
2016年10月	ポート（現グループホームラフト）開所
2019年12月	コーラル開所
2023年2月	法人本部事務所を船橋市習志野台に移転する。
2023年3月	社会福祉法人ラフト設立
2023年4月	NPO法人ラフトが実施していた事業を全て社会福祉法人ラフトに移行し、NPO法人ラフトは解散となる。

生活介護事業所コーラル

2019年12月	NPO法人ラフトが船橋市日中一時支援事業所として運営を開始
2020年4月	生活介護事業へ移行（定員20名・火曜日～土曜日開所）
2023年4月	NPO法人ラフトが法人格を変更したことに伴い、運営者が社会福祉法人ラフトとなる。
2024年1月	「アイル」を従たる事業所化する。（定員30名・月曜日～土曜日開所）
2024年6月	従たる事業所「アイル」を「うる」に名称変更
2024年8月	従たる事業所「コラリウム」を開所